

熊大通信

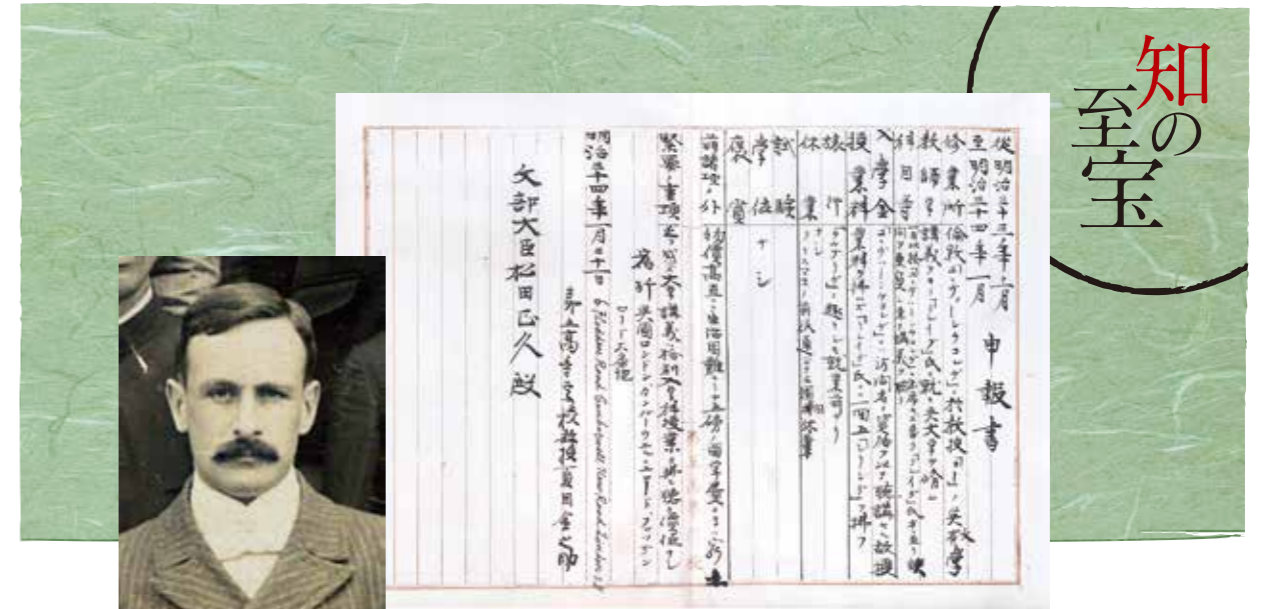
vol. 87
2023 Winter

特集Ⅰ

世界に「ひらく」
IRCMS AND IROAST
最先端を切り開く2つの国際研究機構

特集Ⅱ

やってみよう！国際交流



知の至宝

William E. L. Sweet

夏目金之助が五高に送った留学の状況を報告する申報書

夏目教授の留学

1900(明治33)年、夏目金之助(漱石)が、第五高等学校の英語教授としてイギリス留学に赴いたことは既に知られている。しかし、ロンドンに滞在した日々が鬱々としたものだったわけではない。

大学の講義は授業料を払って聞く必要はないと言い切り、英文学研究という目的のため、シェークスピア研究家のW. J. Craigの下で個人授業を受けていた。

物価高や留学費用の逼迫を嘆きながらも、博物館や美術館を訪問し、音楽や演劇を楽しみ、ビクトリア女王の葬儀を見物したりした。旧知の中村是公と偶然再会しロンドンの街を方々遊び歩き、自転車に乗る練習などもしている。一方で、勤務先である五高のために働くことも厭わず、校長 桜井房記の依頼で新たに雇い入れる外国人教師の人選に協力し、William E. L. Sweetの採用に至った。

留学期間が終わろうとする時期には、帰国せずに引き続きフランスへ留学したいとの希望を持つようになる。残念ながらその希望は叶えられず、帰国の途につくことになったが、後に「最も不愉快の二年」と述べた留学の日々は、人々が想像するほど暗いものではなかったように思われる。

文 藤本秀子(五高記念館)

※中村是公 夏目金之助(漱石)の大学予備門時代からの親友であり、後に南満州鉄道株式会社第二代総裁を務めた。

※William E. L. Sweet 1901(明治34)年、五高の英語教師として来日し、1906(明治39)年まで在職、その後東京高等師範学校に長く勤務し「英国風物談」「続英国風物談」を著した。



未来へつなぐ。
— 熊本大学とSDGs —



私たちは
熊本県SDGs
登録事業者です。
©2010熊本県くまモン



2022年10月、熊本大学の新たな国際研究拠点として「熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター」が設置された。世界で注目される日本のマンガだが、研究にあたっては散逸しやすいのがネックだった。「まず基盤となる資料のアーカイブを作ることが重要」と水元豊文センター長。現在、国内で発行されたマンガは約50万点。これを全て集めるのが目標と言う。そして、資料収集と研究人材の育成を2本柱に、世界のマンガ研究をリードする拠点となることを目指している。

文学部附属国際マンガ学教育研究センター

水元 豊文 教授

MIZUMOTO Toyofumi

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 世界に「ひらく」
IRCMS AND IROAST
最先端を切り開く2つの国際研究機構
- 11 研究室探訪 有機体を化学的に設計
新しい電気機能的物質を創る。
理学部理学科化学コース
大学院自然科学教育部理学専攻化学コース
松田 真生 教授
- 13 特集Ⅱ やってみよう！国際交流
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

表紙 / 【原画】大学院教育学研究科 松永 拓己 教授
「クマモトの学堂」
国際先端医学研究機構棟前にて協議し合う研究者たち

熊本大学広報誌 熊大通信 vol.87

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3110
(総務部総務課広報戦略室)
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】熊大通信編集委員会
茂木 俊伸／委員長 大学院人文社会科学研究部(文学系)
安高 啓明／大学院人文社会科学研究部(文学系)
松永 拓己／大学院教育学研究科
松永詩乃美／大学院人文社会科学研究部(法学系)
原岡 喜重／大学院先端科学研究部(理学系)
黒田 雅利／大学院先端科学研究部(工学系)
坂梨 京子／大学院生命科学研究部(保健学系)
首藤 剛／大学院生命科学研究部(薬学系)
濱洲 里美／総務部総務課広報戦略室

【制作】株式会社 談

※取材にあたっては、基本的な感染防止対策をとった上で実施し、撮影時のみマスクを外しております。
※記載の職名、学年等は取材時のものです。

特集 I 世界に「ひらく」

IRCMS

Cutting-edge Research
Leading the World

IROAST

最先端を切り開く2つの国際研究機構

先端国際共同研究を 先導する2つの研究機構

国際先端医学研究機構（IRCMS）も国際先端科学技術研究機構（IROAST）も2013年に採択された、文部科学省の研究大学強化促進事業が出发点です。研究大学強化促進事業とは、世界水準の優れた研究活動を行う大学群を増強し、日本全体の研究力強化を図るための事業。IRCMSは2015年、IROASTは2016年に設立されました。

熊本大学の研究力を向上させることも目指しています。今、本学を含む日本の大学の課題の一つが、世界的な認知度を上げること。すばらしい研究や教育を行っていることを、日本国内はもとより世界に、もっと発信しなければいけません。そのためには、影響力を持つ組織になることが不可欠です。

本学には、発生の学的視点から生命科学と医学を融合した研究を行う発生医学研究所、国内大学の中では唯一エイズなどのヒトレトロウイルスを研究するヒトレトロウイルス学共同研究センター、マグネシウム合金の研究開発拠点である先進マグネシウム国際研究センターなど、すでに世界最先端の研究を推進する研究機関も多くあります。これらに加え、本学全体の研究力をさらに上げ、より強い国際的影響力を持つ大学となるためのインフルエンサーが、IRCMSとIROASTです。両研究機構には海外のトップレベルの研究者も在籍しており、彼らが本学教員と国際共同研究を進めるとともに、大学院生の研究指導を行う。そういった研究力の向上は、熊本大学の認知度の向上にもつながると考えています。



研究・グローバル戦略担当
大谷 順 理事・副学長
OTANI JUN

熊本大学の国際研究を先導する2つの研究機構

生命科学分野



国際先端医学研究機構

(International Research Center for Medical Sciences)

生命科学系の部局と連携し、生命科学分野における研究力強化と国際共同研究を推進

自然科学分野



国際先端科学技術研究機構

(International Research Organization for Advanced Science and Technology)

国際共創による理工系分野の研究力強化と頭脳循環ネットワークの構築

2つの研究機構が連携し、熊本大学の国際レベルの研究力向上へ

熊本大学では、国際レベルの研究と国際共同研究を推進し、最先端の研究成果を世界へ発信し続けることを目指しています。

その重要な拠点となっているのが、2つの研究機構

「国際先端医学研究機構 (IRCMS)」と

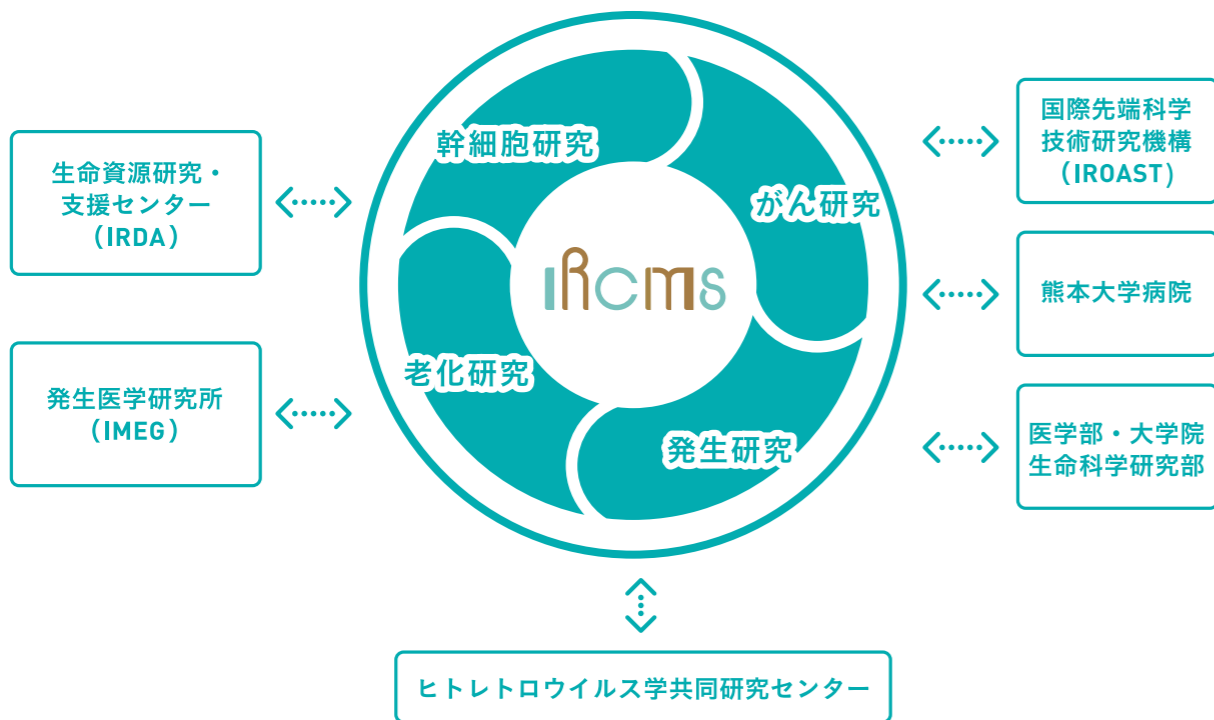
「国際先端科学技術研究機構 (IROAST)」です。

日本、そして海外の一流研究機関とも連携し、世界を舞台に活躍できる

若手研究者の育成も行うこれらの研究機構をご紹介します。

① 水野特任准教授と楢垣教授の共同研究で撮影された骨髄内の造血幹細胞 ② 佐田特任准教授が研究する皮膚幹細胞の顕微鏡写真
③ 松尾テニウアトラック准教授が材料開発の研究を行っている積層セラミックコンデンサ

学内の機関と連携し、
4つの分野で生命科学分野の国際研究を牽引



こんな研究やってます！

皮膚の再生能力を
支える幹細胞
その働きの
メカニズムを追う

私は、幹細胞生物学の観点から、皮膚の再生と老化のメカニズムを研究しています。皮膚は紫外線など外界のストレスに直接さらされますが、非常に高い再生能力を持っています。その再生は皮膚の幹細胞が支えています。加齢とともに機能が衰えます。

私の研究は、皮膚の幹細胞が人の体の中でどう制御され、なぜ加齢とともに衰えるのかを明らかにすること。これは、免疫細胞の異常によって生じると考えられているアトピーや乾癬などの皮膚疾患の解明にもつながる研究です。幹細胞の視点を入れることで、疾患の発生メカニズムに対する解釈自体が変わるかもしれず、疾患の治療標的やマーカーの発見につながることも考えられます。



そんな環境は、日本にいながら、世界で研究をやっているという意識を常に与えてくれます。世界の研究者と交わり、彼らに私たちの研究も見てもらうことで、世界レベルで活躍する研究者になる。将来、その分野を世界的にけん引するような研究者を輩出する組織だと思っています。

国際先端
医学研究機構
佐田 亜衣子
SADA Aiko
特任准教授



国際先端医学研究機構
須田 年生 研究機構長
SUDA Toshio

国際先端医学研究機構（IRCMS）は、幹細胞生物学、がん、老化、発生医学の基礎研究を行う研究機構です。特に造血幹細胞研究においては、日本トップレベルの研究組織。すべての血液細胞の元となる造血幹細胞のメカニズムを非常に細かいところまで解明し、血液学会等でも注目を集めるほどの研究業績をあげています。

いい人材が集まれば
自然と組織は良くなっていく

研究の融合と発展を促す
オープンラボシステム

若手研究者の成長や、研究者の交流による研究の融合と発展を目的として採用しているのが、オープンラボシステムです。IRCMSは創立当初からラボとラボの境界がないことが大きな特長。研究機器は全ラボ共有のコアファシリティーで、新しく赴任した研究者も、着任当日から実験に取り組みることができます。

「私たちが特に入力しているのが、国際共同研究や研究者採用における国際化です。」

IRCMSには現在約80名が在籍し、その40%が外国人。そのため、話す言葉や表示類のほか、研究機器の取り扱い説明書や会議等の文書もすべて英語で運営しています」と須田研究機構長。海外パートナー機関との人材交流にも注力。先端医学研究に関心を持つ大学院生やポスドクに、リサーチインテーンとしてIRCMSで研究する機会も提供しています。「外国人研究者の皆さんには、日本のやり方に合わせるのではなく、多様なスタンダードを持ち込んでもらいたい。もし、疑問に思う日本のやり方や考え方があれば、はっきりと伝えてもらいたいと思います」

オープンラボシステムや国際化は近いうちにも日本でも当たり前となり、いずれ「国際化」という言葉が意味を持たなくなる日が来ると須田研究機構長。「その時に、組織として大きな力となるのはやはり研究力。今後は、熊本大学内の研究組織である発生医学研究所等とのコラボレーションをはじめ、国内外のより多くの研究となつていきたく考えています」

撮影：藤田録音



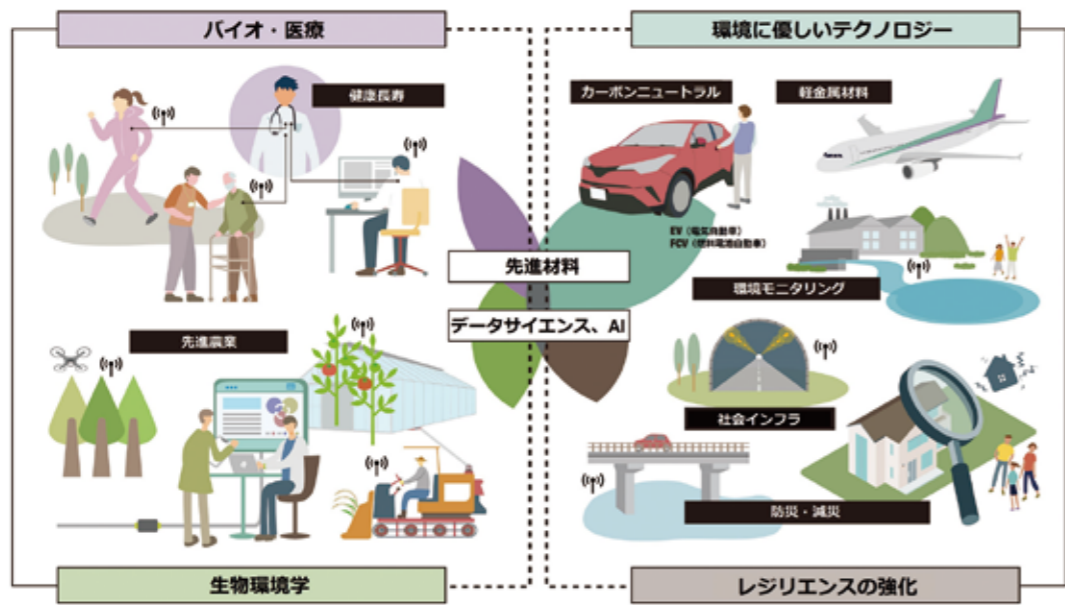
造血幹細胞研究でトップレベル
半数近くが外国人の国際研究機関

研究機構内では、すべてが英語で運営。国際色豊かで、かつ、世界トップレベルの医学研究を展開しているのが国際先端医学研究機構（IRCMS）です。その特徴や目指す姿を、須田年生研究機構長に伺いました。



IRCMSの
ウェブサイトは
こちら ▶

ポストコロナ、ポストSDGsを先導する
Well-being社会の構築を目指した
世界トップレベルでオンリーワンの理工系研究を推進



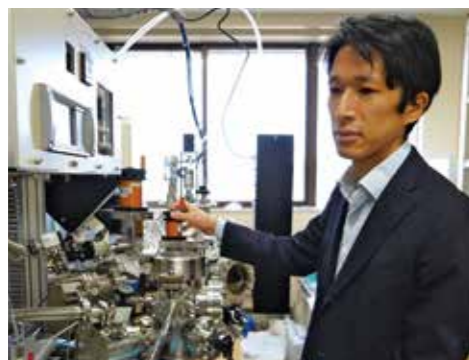
海外の43の大学・研究機関と強固な国際共同研究ネットワークを確立

こんな研究やってます！

あらゆる電気機器に
欠かせない
現代テクノロジーを支える
強誘電体を研究

私の研究は、強誘電体。スマートフォンやパソコンなど、電気を使って利用されるあらゆるものは、「セラミックコンデンサ」と呼ばれる回路を安定的に動作させるために必要な素子が使用されています。強誘電体はセラミックコンデンサに使用され、その性能を決める材料です。私は、このセラミックコンデンサが、より少ない電圧で、より多くの電気を貯められるようにすることを目指しています。もっと小さなセラミックコンデンサがもっと多くの電気を貯められるようになれば、スマートフォンの高機能化や高速度化が可能になります。また、セラミックコンデンサに使われている場所を、他の機能のために使うこともできるようになります。

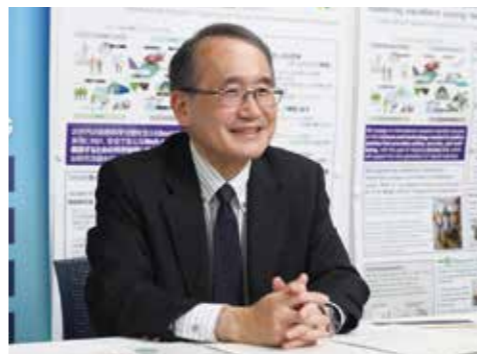
現在は、韓国の大学発ベンチャー企業との共同研究が進行中です。彼らしか作ることができない結晶を供給してもらい、私の研究室で



加工や熱処理をして、基礎的な性質や電気物性の評価を行っています。これらの共同研究もIROASTの支援のおかげ。資金的なサポートも大きく、若手にとってはありがたい制度です。今後は、半導体のほか、医療技術の向上にもつながる強誘電体の研究を進めていきたいと考えています。



国際先端科学技術研究機構
松尾 拓紀
MATSUO Hiroki
テニユアトラック准教授



国際先端科学技術研究機構
高島 和希 研究機構長
TAKASHIMA Kazuki

めるよう、研究に専念できる環境を作っています。IROASTでは国際公募でテニユアトラックの教員を採用。これまでに8名の教員が世界的に注目される多くの成果を挙げました。そのうち5名が本学の大学院先端科学研究部や産業ナノマテリアル研究所に籍を移して研究を継続しています。実績を積んだ優秀な研究者が学内の別部署に移ることで、頭脳の好循環も生み出しています」と高島和希研究機構長は話します。

国際共同研究の推進については、海外の大学に在籍するトップレベルの教授を卓越教授として雇用。「本学の同じ分野の教員と研究を進め、国際共著論文を書くことはもちろんですが、何より学生たちが、世界トップレベルの教授から直接指導を受けることができるため、非常に大きな刺激となっています」

熊本大学の研究者と、海外の様々な大学・研究機関との国際共同プロジェクト研究チームも設置。所属する海外の教員はIROASTの客員教授となり、卓越教授と同じく、学生の研究指導にも力を注いでいます。

国際共同研究に力を注ぐ理由について、高島研究機構長は「新しい科学技術の分野を開拓するには、異なる視点からの考えやアイデアが重要。同じ分野でも国が異なると、背景となる考え方が異なり、彼らが出会い議論することで化学反応が生じ、これまで思いもつかなかった新しい展開が生じることがあり、研究の質や内容を格段に高めます」と話します。

IROASTは2021年度に第1フェーズを終了し、第2フェーズに入ったばかり。「激甚災害や感染症の蔓延など、先が予測できない社会情勢の中、安全安心で多様な幸福感を持って過ごすことができるWell-being社会の構築が求められています。その実現に、科学技術が果たす役割は大きい」と高島研究機構長。第2フェーズにおいては、ポストコロナ、ポストSDGsを見据え、環境調和型社会、健康・長寿社会を支える技術、自然災害に対するレジリエンスの強化につながる先端研究をより強力に進めていきたいと話してくれました。

Well-being社会構築に
不可欠な理工学研究

国際先端科学技術研究機構（IROAST）は、世界中から採用された若手研究者が、世界トップレベルの研究者らとともに最先端の理工学研究を進める研究機構です。高島和希研究機構長に、研究機構について話を伺いました。

国内外から優秀な若手研究者が集結
最先端科学技術をここから

若手が研究に没頭できる
テニユアトラック制度

国際先端科学技術研究機構（IROAST）には、大きく2つのミッションがあります。一つは世界の第一線で活躍できる若手研究者の育成で、もう一つは海外のトップクラスの大学・研究機関との国際共同研究の推進です。若手研究者の育成を支えているのが、テニユアトラック制度です。「若



IROASTの
ウェブサイトは
こちら ▶





国際先端医学研究機構特任准教授
(プロジェクト責任者)
水野 秀信
MIZUNO Hidenobu

世界初！生きて 造血幹細胞の動 いているマウスの きを見える化！

生体イメージング技術 × 細胞画像処理技術で実現！



IRCMSとIROASTの共同研究



大学院先端科学研究部 教授
(元 IROAST 准教授)
檜垣 匠
HIGAKI Takumi

は、IROASTとIRCMSの
ジョイントセミナーです。より親し
くなったのは、韓国の国立大学であ
る韓国科学技術院(KAIST)での
シンポジウム。同い年と知り、意気
投合して仲良くなったんですよ。
水野 画像解析が難しく困っていた
のですが、「こんなにすごい技術を
持っている人がいるのなら、一緒に
やれば研究が早く進むのでは」と、
うれしかったことと、個人的に仲良
くなったことを覚えています。

国際先端医学研究機構(IRCMS)
と国際先端科学技術研究機構(IROAST)の大きな特長は、研究機
構の内外、そして国内外の研究との
連携を力強く支援すること。それぞ
れの若い研究者がタグを組んで成
し得た「世界初」の成果について、チ
ームを組んだIRCMSの水野秀信特
任准教授とIROASTの檜垣匠教
授(現在は大学院先端科学研究部)に
話を伺いました。

―共同研究の内容について教えてく
ださい。

水野 幹細胞学は熊本大学の得意分
野の一つです。さらに発展させるた
め、理工学分野が連携したチームを
組むことになりました。

私の専門は、神経科学と顕微鏡光
学です。今回は、私が持つ生体イメ
ージングと、檜垣先生が持つ定量的画
像解析の技術を組み合わせ、生体内
の細胞の動態を解明するという研究
を行いました。

具体的には、生きたマウスの骨髄
の中にある造血幹細胞を観察し、細
胞の分布、大きさ、変位、速度など
様々な動態に関する尺度を計測しま
した。造血幹細胞は、子どもの時は
体の中を循環し、大人になるにつれ
て骨髄に入って定着、そこで様々な
血液の細胞をつくり出します。造血幹細
胞が生体内で実際にどう動いている
のかを、今回、世界で初めて観察す
ることができました。

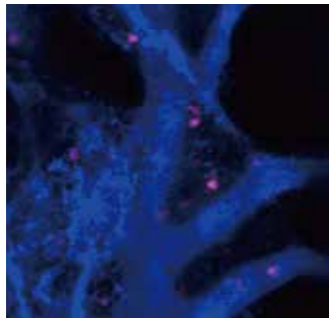
檜垣 水野先生は、骨髄という深い
場所の中を見る骨透過レーザーを用
いて、生きたまま造血幹細胞を観る
という非常に高度なイメージング技
術を開発しておられました。生きて
いるマウスは、麻酔をかけていても、

い部分を捕い合って、大きな成果を
出せることがメリット。なにより、
水野先生と個人的なフレンドシップ
が生まれたことが良かったです。

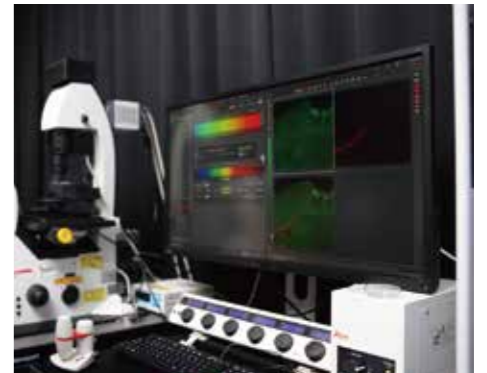
水野 IRCMSは、オープンラボ形
式を採用していて、施設内外の異分野
の研究者とも有機的に融合する仕組み
が整っているのがありがたいですね。

檜垣 IROASTも他の研究機関
との連携を強力にサポートしてくれ
ます。私が、水野先生が所属するI
RCMSとのコネクションを作るこ
とができたのも、IROASTのおか
げ。今も、IROASTの国際共同プ
ロジェクト研究チームで、アメリカ
の研究者と一緒に研究を進めること
ができています。

―今後への期待は。
水野 今回は造血幹細胞の動きを見
ましたが、今後は、その動きを制御
する細胞内のイオン濃度やカルシウ



顕微鏡写真のズレを補正する画像処理技術で
映し出された骨髄内の造血幹細胞。青い部分
が血管で、ピンクの部分が造血幹細胞



組織深部を観察するためのレーザー顕微鏡

心臓の拍動や呼吸による動きが生じ
ます。取得される顕微鏡画像はこの
ような小さな動きに影響され、その
ままでは正確な計測が困難でした。
そこで、私は画像間の類似性を評
価する画像処理手法を使って動画の
位置ずれを補正しました。この処理
によって、拍動や呼吸に由来する視
野の動きをほぼ無くすることができ、
造血幹細胞の動きを正確に評価す
ることができるようになりました。

水野 私たち二人の他に、熊本大学
病院眼科で血液分野研究の経験を持
つ瀧原祐史講師と、大学院先端科学
研究部でコンピュータサイエンス分
野を研究しているイスラエル・メン
ドンサ助教も、携わってくれました。
―共同研究のきっかけは？
檜垣 水野先生と初めて会ったの

ム濃度のイメージングと別の解析法
を組み合わせて、新しい知見を得るこ
とができると考えています。血液疾
患のモデルマウスを導入し、IRC
MS内外の研究者と共同で、血液の
形成不全やがんなど、血液疾患の理
解と治療法につながる研究も進めた
いですね。

檜垣 私の専門は、実は植物細胞生
物学ですが、画像解析や機械学習を
活用した画像データの分析にも力を
入れています。分析技術の適用範囲
はとて広く、植物でも動物でも同
じ解析手法が使えます。この共同研
究はその典型例ですね。今後も幅広
い研究を展開できればと思います。

水野 今回は、理工学が連携した
共同研究で、最先端のデータ解析法
を開発しました。このような技術
は、医学研究によるデータから有益
な情報を得るため、今後ますます必
要になると思います。私たちはすで
に複数の研究論文も発表。今後も共
同研究を続けることで、よりよい研
究成果を出していけたらと考えてい
ます。

▼共同研究の紹介動画



研究室探訪

Laboratory Report

理学部理学科化学コース
大学院自然科学教育部理学専攻化学コース

松田 真生 教授
MATSUDA Masaki

有機固体を化学的に設計 新しい電気機能性物質を創る。



先生から一言！

電気的機能性をもつ有機物の固体を創る

私たちは、有機分子が集まり固体状態となった有機固体の電気物性を研究しています。通常の有機固体は電気を流すことが苦手な絶縁体ですが、適切な化学的設計を施すことで、有機物からなる半導体や金属、超伝導体さえ創り出すことができます。新物質の開発と物性発現機構の理解は、基礎学問と応用研究の両面において非常に重要です。複数の原子の結合からなる分子は、原子の組み合わせにより無限の設計自由度をもっており、その集合体が示す性質も無限の可能性を秘めていると言えるでしょう。

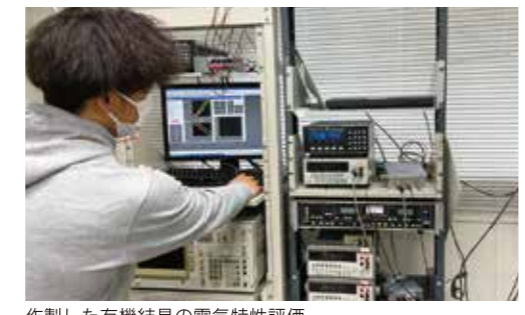
研究は上手くいかないことだらけです。学生の皆さんには、問題をいかに解決するかを考える過程の重要性を感じてもらいたいですね。上手くいかないことを楽しみながら一緒に研究を進めていきましょう。



大学院先端科学研究部(理学系)
まつだ まさき
松田 真生 教授

うちの研究室自慢

- 研究室の特徴
 - ① 時間を決めて計画的に研究
仮説や計画をしっかり立てて、効率的に研究を進めています。研究とそれ以外のプライベートなど、メリハリがついた時間の使い方も身につきます！
 - ② わきあいあい！先輩に相談しやすい環境
先輩と後輩の壁があまりなく、相談しやすい環境の研究室です。空いた時間にも先輩と実験について話し合ったりしています。
 - ③ 話をしっかり聞いてくれる先生です！
研究は基本的に自分で進めていきますが、迷ったときや行き詰まったときには、しっかり話を聞いてくれる先生です。アドバイスをもらって、方向性が見えて研究が進みます！
- 主な就職先
京セラ株式会社、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社、住友化学株式会社、大日本印刷株式会社、凸版印刷株式会社、学校教諭



作製した有機結晶の電気特性評価



作製した有機結晶に電極をつけているところ

学生から一言！ 研究室に所属している学生に研究の魅力を聴きました！



自分なりに工夫して
研究するのが面白い

大学院自然科学教育部
博士前期課程2年
おがた ゆりえ
緒方 友理絵 さん

どんな研究を？

半導体の性質を示す有機固体の研究です。現在、スマートフォンなどに使われている半導体は無機物がメインなのですが、これを有機物で作れないかと思っています。有機物なら軽量化、薄型化できるので、小さい端末や、より多機能の端末の開発にもつながれると思っています。基礎研究は実際の商品に直接つながらないかもしれませんが、興味をもったことを突き詰められることにやりがいを感じています。



研究を通して
人間力や段取り力も
身につく

大学院自然科学教育部
博士後期課程2年
みの こうすけ
峯 幸佑 さん

どんな研究を？

電気を通す有機物を作る研究をしています。自分で設計した有機化合物の性質を調べ、なぜそのような性質を示すのかを考察するのがテーマです。世の中になく化合物や新しい機能を持った化合物を生み出していくのがとても面白いと思います。有機物の結晶を作り、その性質を調べていくのですが、目的の結晶を作製することができたときや、思った通りの機能ができたときはやりがいを感じます。

研究はどんなところが面白い？

授業では取り扱わない測定や電気物性に興味をもって研究室を選びました。最初は淡々と作って測定するという単純作業だと思っていましたが、自分で工夫することがたくさんあって「次はもっとこうしよう」と考えながら研究を進めていくのはとても面白いです。博士前期課程修了後は博士後期課程に進む予定です。研究の経験を活かした仕事に就きたいと思っています。

研究室を選んだ理由は？

固体化学は講義等でほとんど取り扱われない分野だったため、どのような研究が行われているのかに興味をもち研究室を選びました。また、先生の話や話を聞いて、研究室での活動を通して研究以外のこと、例えば社会に出てから必要となる人間力なども身につくのではないかと考えたのも理由の一つです。目標に向かってどのように進めるかなど、物事の進め方や考え方や、段取り力なども身につけていると思います。

熊本大学発 国際交流!



今回お邪魔したのは、教養科目の1つ「Multidisciplinary Studies」。Lander Sims 先生が「Music and Culture」をテーマに英語で授業を行っています。学んでいるのは短期留学生や大学院生の聴講も含め海外からの学生19人、日本人学生29人です。学期を通じたテーマは「Folk Music」。これまで世界各国の音楽文化について学び、今日のテーマは「日本」です。まずはSims先生が、日本を含め世界中の民謡を発掘・保存する活動をしているアーティスト、松田美緒さんを紹介。その後、彼女のアルバムからピックアップされた民謡について、学生たちはグループワークを行いました。

Multidisciplinary Studies

日本人と留学生が
ともに学ぶ

学内で留学体験！ 講義もディスカッションも英語の教養科目



特集II やってみよう! 国際交流

コロナ禍の中でも国際交流がしたい！
世界のことをより深く知りたい・学びたい！

熊本大学には、そんな思いに応えるべく
海外に行かなくても叶えられる
国際交流の機会があります。

まるで留学したような体験ができる授業や、
留学生と高校生の交流行事のサポートなど、
その内容はさまざま。

単に英語を話すことに留まらない実践的な国際交流。
皆さんもやってみませんか？



「授業ではディスカッションを多く取り入れています。いろいろな国からの留学生と英語で意見交換ができる、普段なかなかできない経験ができています」と話すのは、Sims先生です。「授業で取り上げているのは、途絶えてしまったらもう取り戻せない地方に残る歌という文化。文化を知り、守る重要性を、この授業を通して考えてもらいたいですね。学生たちは、単に英語を話すということではなく、英語でディスカッションすることを通して、自分の意見を持ち、発信できる力を身につけていると思います」と話してくれました。



活発なディスカッションで、
英語力も、発信力も向上

小学生のころからやっている能の海外公演で現地の伝統芸能に触れたことで、海外文化に興味を湧き、この授業を選択しました。
留学生とディスカッションすると、違う文化背景を持つ人の、自分にはない視点からの考え方に触れられて刺激があります。
英語力が上がることはもちろんですが、ディスカッションを通して自分の意見を考え話す、という力もついてきたと思います。

山口 凌 やまぐちりょう
法学部1年



熊本は人がとてもいいと聞いて、熊本大学に留学しました。
この授業を取ったのは、文化に興味があったから。民謡を通してその国の歴史を知ることにもつながっています。一度失くしたら取り戻せない文化や言語を、私たちが受け継ぎ残していくことが大切だと思います。
日本人の学生は、英語を間違えることを恐れている人が多い気がします。でも、こういった授業を通して話すことに自信を持てるようになりますよ。

Cassian Klumpp
カッシアンクルンプ
ハインリッヒ・ハイネ大学
(ドイツ・デュッセルドルフ)
より留学中



世界に広がる、ワタシの世界

熊本大学の留学支援

熊本大学では、大学内や県内外での国際交流のほかに、留学支援制度も充実しています。
「やっぱり海外で国際交流したい!」という学生を力強くサポートします。

1 短期プログラム

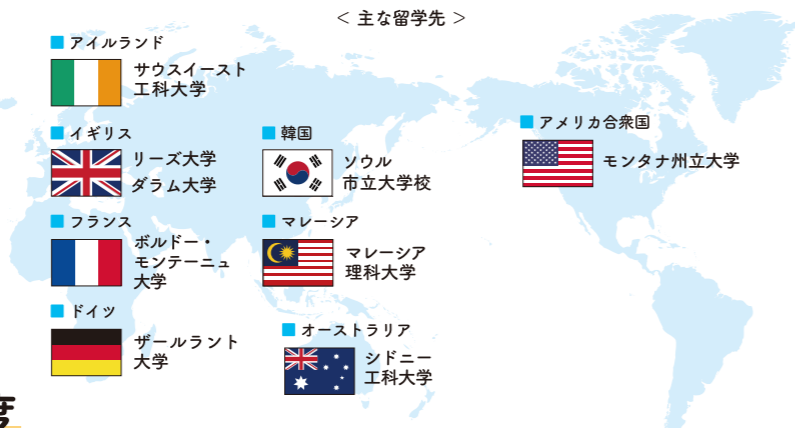
夏休みや春休み期間に協定校等で開催される、2週間～1カ月程度の研修・体験プログラムです。

<主な研修先>

時期	国名	派遣先	実施期間	費用(渡航費込)	滞在先
夏休み	イギリス	バンガー大学	8～9月 (約4週間)	約60万円	ホームステイ
	アメリカ合衆国	モンタナ州立大学	9月 (約3週間)	約65万円	ホームステイ
春休み	ニュージーランド	マッセー大学	2～3月 (約3週間)	約65万円	ホームステイ
	イギリス	リーズ大学	2～3月 (約4週間)	約65万円	ホームステイ

2 交換留学制度

世界各地の
交流協定校に
半年～1年間
留学できます。



3 奨学金制度

交換留学や海外での研修参加を支援する奨学金制度があります。

<主な奨学金制度>

日本学生支援機構 (JASSO)	海外留学支援制度 (協定派遣)	奨学金月額 6～10万円	JASSOによる給付型の奨学金です。協定校へ留学する学生が利用でき、給付額は留学先地域で異なります。学業成績や語学力などで選考されます。
トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム	官民協働海外留学支援制度	月額 6～16万円	自ら企画した留学計画を応募して取得する奨学金です。毎月の奨学金のほか、渡航費や授業料の一部支援もあります。

※このほかにも、熊本大学独自の海外派遣支援事業があります。

お問い合わせ

国際教育課 TEL 096-342-2135
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/kokusaikouryuu>



◀詳しい留学情報は
こちら

熊本大学発 国際交流!

高千穂塾

学外にも広がる国際交流
留学生と高校生の交流が地域の教育を元気に

高校生と留学生に
交流の場を

熊本大学の留学生と宮崎県立高千穂高校の生徒の交流イベント「高千穂塾」は、2016年に理学部との特定地域教育支援事業として始まり、「最初は手探りで開催でしたが、スムーズに交流できるプログラムの流れも見えてきました。高校側の支援もあって6年続いています」と担当する市川聡夫副学長は話します。



今回のプログラムでは、高校生と留学生がそれぞれ1～2名ずつでグループを組みます。まず、高千穂高校で開かれた交流会で町の

日本文化を学ぶ
貴重な時間

当日の交流をサポートしたのはグローバルリーダーコース(GLC)の学生です。GLCは地域の問題をグローバルに考え、行動できる人材を育成しています。「高千穂の名物って、英語でなんて言ったらいいですか」「それはね…」などのGLC生のサポートを受けるうちに、高校生と留学生の表情もほぐれお互いに身を乗り出して会話を楽しむシーンも見られました。神社での手の洗い方やおみくじの内容の説明では、留学生の日本文化理解につながっただけでなく、高校生にとっても地元の歴史や日本の文化を深く学ぶ機会になっていったようです。

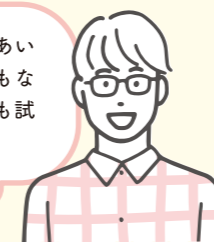
地域を支援する
国際交流・教育の場に



サポートに入ったGLC生にとっても、留学生との交流は貴重な体験になりました。参加した佐藤理咲さんは「留学生と交流する機会が少なかったため参加しました。ミヤンマー出身の留学生と高校生、双方がスムーズに交流できるサポートができたのがうれいんです」と話します。高校生からは「英語をもっと学びたくなった」という声も。熊本大学発の国際交流が、地域の教育を支援する機会として期待されています。



留学生や高校生とのふれあいは、視野を広げる機会にもなりました。自分の英語力も試せました!



GLCの学生

ペアの方と英語でずっと話していたので自信が付き、英語で話すことへの抵抗がなくなりました!



高千穂高校生

GLCの詳細はこちら▶



新規事業としてホテル事業を担当。
企画部門でやりがいを感じる毎日



三浦 琴美
MIURA Kotomi
西部ガスリビング株式会社(福岡県)

文学部コミュニケーション情報学科 平成30年3月卒

平成6年生まれ。長崎県佐世保市出身。長崎県立佐世保南高等学校卒業。もともとタラタラ気質ですが、ここ最近はおかげでジムに通い始めたリバドミントンをしたり、アクティビで過ごしています。

熊大のココがイイ!
黒髪キャンパスが森みいたところ!

海外留学をしたいと思っていた

高校生では職業についての夢はなく、なるようになって思っていました。夢がなかったからこそ、何をしたいくなくても良いように勉強をがんばれたように思います。ただ、どこかのタイミングで海外留学をしたいとはぼんやり思っていました。

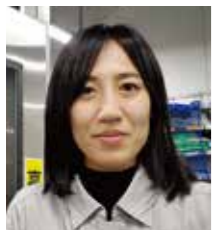
勉強に交流にベンチャープロジェクトにも参加!留学の夢も実現

ひたすら平野順也先生にお世話になり続けた大学生活でした。授業やゼミはもちろん、「学生ベンチャー・夢プロジェクト」への参加や、卒業した先輩方との交流など、多くのことを経験しました。海外留学も実現。平野先生のおかげで勉強も遊びもがんばれました。

入社後は新規事業を担当。試用錯誤して仕事を進めています

現在の会社に入社し、新規事業であったホテル事業に携わることになりました。社内に詳しい人もおらず、試用錯誤しながら仕事を進めていきました。ホテルのオープン後、毎日ホテルのフロントに立っていたことは良い思い出です。現在は企画や事務などを担当しています。

大学時代に鍛えたスキルを活かし
暮らしに役立つ技術を研究開発



片倉 美樹
KATAKURA Miki
住友化学株式会社情報電子化学品研究所(愛媛県)

理学部理学科 平成25年3月卒
大学院自然科学研究科博士前期課程理学専攻 平成27年3月修了
大学院自然科学研究科博士後期課程理学専攻 平成30年3月修了

熊大のココがイイ!
平成2年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立第二高等学校卒業。最近ハマっていることは、ラジオを聴くこと(radiko、ポッドキャスト)、500円玉貯金、禅寺巡り。

入学後の選択肢が多い一学科制の理学部を選択

高校時代は国語が苦手な数学や理科が得意という理由で理系へ進み、大学は一学科制を導入している地元の熊本大学の理学部へ。これといった将来の夢もなかったため、大学入学後に時間をかけて自分の興味に合わせて進路を決めることができて良かったです。

研究室生活を通して、社会人になっても役立つスキルが身に付いた

学生時代の半分以上を研究室で過ごし、日々研究に励んでいました。実験だけでなく成果をまとめてそれを発表することも求められるため、実験スキルに加え資料作成やプレゼンテーション力も鍛えられました。社会人になっても役に立っているスキルだと思います。

基礎研究や製品開発業務に携わる

入社して3年半はコーポレート部門で有機エレクトロニクス関連の基礎研究に携わりました。学生時代の研究と似ている部分も多く、論文や特許を読んで実験計画を立て、試用錯誤しながら事業化のタネを探しました。その後、情報電子化学品部門へ異動になり、現在は大型テレビ向け偏光板の保護フィルムや接着剤の開発を行っています。

学ぶ姿勢を忘れずに
貢献できる質の高い検査を目指す



伊崎 彩音
IZAKI Ayane
済生会熊本病院(熊本県)

医学部保健学科検査技術科学専攻 平成28年3月卒
大学院保健学教育部博士前期課程保健学専攻 平成30年3月修了

熊大のココがイイ!
平成5年生まれ。長崎県南島原市出身。長崎県立島原高等学校から熊本大学を経て熊本大学院へ進学。趣味はおいしい日本酒と手作りおつまみで、おうち時間を過ごすこと。

熊大のココがイイ!
立地の良さ!食堂の美味しいご飯!個人的で面白い人達がたくさん!

診断や治療結果判定に貢献できる臨床検査技師に魅力を感じた

将来は医療系の職業に就きたいと考えており、進路を考える中で臨床検査技師という職業を知りました。疾患の診断や治療効果判定に貢献できるところや、検査にも多くの分野があることに魅力を感じて、この職業を目指しました。

実習や研究、サークル活動と大変で充実した大学時代

大学では講義や実習で多くのことを学び、大学院での研究は試行錯誤を繰り返す日々でした。国際学会のためスウェーデンへ渡航したことも。どれも大変でしたが、今の自分があるのはこれら全ての経験のおかげです。また、バスケサークルに入っていた他学部の友人もたくさんで、充実した毎日でした。

技術や知識量で検査の質が変わる。学ぶ姿勢を忘れないよう心がけたい

現在は主に心臓や血管の超音波検査など生体機能検査を行っています。検査者の技術・知識量によって検査の質が大きく変わってくるので、就職してからも常に学ぶ姿勢を忘れないよう心がけています。また、血液検査や遺伝子検査を担当することも。今後たくさん業務を習得したいと考えています。

「笑顔にできる弁護士」を目指し
司法修習生としてがんばっています



林 弥希
HAYASHI Miki
司法修習生(山口県)

法学部法学科 平成27年3月卒
大学院法曹養成研究科 平成30年3月修了

熊大のココがイイ!
平成4年生まれ。福岡県築上郡吉富町(九州一小さな町)出身。私立東筑紫学園高等学校卒業。趣味は、野球観戦、お酒と食べ歩き。11年の熊本生活の中では、たくさんおいしいお店を見つけた。

熊大のココがイイ!
緑が豊か。時代を感じられる建造物がある。先生との距離が近く、なんでも相談できる。

お世話になった経験から「笑顔にできる弁護士」が夢に

高校時代の夢は「人を笑顔にできる弁護士」。自分がお世話になったことをきっかけに、弁護士になりたいと思うようになりました。一般的に、弁護士は怖い・堅い・近寄りづらいイメージがあると思います。私は話した後に、ふと笑顔になれるような弁護士が夢でした。

人に恵まれた大学時代。やってみたかったことにも挑戦

素晴らしい友人・先生に恵まれ、穏やかな大学生活だったと思います。大学時代はやってみたかったことに挑戦しようと、ダブルジョブでバイトをしていました。バイトをがんばりすぎて試験前にバタバタ勉強した記憶がありますが、それも思い出です。

無事に合格!夢を実現するために司法修習生でもがんばる

弁護士になるという夢を追い求めて、法律事務所の事務員として働きながら司法試験浪人をしていました。勉強を続けるのは大変でしたが、無事に合格できたので、人を笑顔にできる弁護士になれるよう司法修習でもがんばりたいと思います。

医療従事者になりたい夢を実現し、
大学病院の専従薬剤師と研究活動を両立



尾田 一貴
ODA Kazutaka
熊本大学病院薬剤部(熊本県)

薬学部薬科学科 平成15年3月卒
大学院薬学教育部博士前期課程 平成17年3月修了
大学院薬学教育部博士後期課程 平成30年9月修了

熊大のココがイイ!
昭和55年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立済々黉高等学校から熊本大学薬学部卒業後、平成17年より社会保険大牟田天領病院(福岡県大牟田市)に勤務。平成26年に熊本大学病院に転職し現在に至る。研究活動のモットーは薬剤師の社会的プレゼンス向上。

医療系マンガや交通事故現場の遭遇体験から医療従事者を志す

もともと理系への進学を考えていました。医療従事者を志すようになったのは、医療系のマンガや、交通事故の現場に出会った(同じ高校の生徒で、結果死亡された)経験などからです。当初は医学部を考えていましたが、薬学部で合格し、ここで精いっぱいがんばってみようという気持ちになりました。

サッカーやバンド活動で充実した大学生活

大学ではサッカー部に入部しました。初心者でしたが、部の同級生や、先輩後輩に恵まれ、気づけば生活や交友の中心に。引退したときは感涙しました。バンド活動もいくつか積極的に参加し、「蕃滋祭」の後夜祭でも演奏しました。

社会人コースで博士後期課程を修了。仕事と研究を両立

卒業後は薬剤師として一般病院に勤務。その後、研究活動を積極的に進めるようになり、大学病院へ転職し、博士後期課程(社会人コース)で学位を取得しました。今は研究活動も進めつつ、大学病院感染制御部の専従薬剤師として、学会の抗菌薬適正使用ガイドライン策定にも携わっています。

学生時代に得た知識を活かした
現場の課題解決にやりがいを感じる



井上 衆人
INOUE Shuto
TOTO株式会社 衛陶生産本部 衛陶生産技術部
衛陶組立技術G(勤務地:福岡県)

工学部情報電気電子工学科 平成26年3月卒
大学院自然科学研究科博士前期課程情報電気電子工学専攻 平成28年3月修了

熊大のココがイイ!
平成3年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立済々黉高等学校卒業。趣味はジャズピアノ、学部3年から国内外ミュージシャンと共演し、現在も休日に九州各地で演奏したり、中州ジャズに出演したりするなどの活動を続けています。

音楽への興味から、音響機器やパソコンに興味をもち工学部へ

小さいころから音楽が好きで、アーティストになるか音に関わる仕事をしたと考えていました。その中で、音響機器やパソコンに興味を持つようになり、漠然と工学系の技術者になりたいと考えるようになりました。

モダンジャズ研究会でジャズ三昧。実験にも妥協せず取り組む

在学中はモダンジャズ研究会に所属し、サークル中心の生活を送っていました。バンドを組んで九州ライブツアーをしたり、ジャズフェスで演奏したりしたのは今でも印象に残っています。学生実験や研究にも妥協せず取り組んだおかげで、プログラムや電気回路の知識・経験を吸収できたのはとても大きかったです。

インターンがきっかけで就職。課題を解決したときに達成感

就活の足しになれば、と思い立って受けたインターンがきっかけで、今の会社で就職しました。入社後、研修として陶器製造現場を経験し、現在は工場の組立ライン・検査設備設計など技術的サポート業務に携わっています。日々発生する様々な課題に直面しつつも、解決できたときの達成感はひとしおで、非常にやりがいのある仕事だと感じています。



本学の卒業生たちの今に迫る「卒業生ジャーナル」。熊本県内はもとより、国内外で活躍している先輩たちの様子を、これまでの歩みや苦勞、そして喜び、楽しみなどを通じてご紹介します。

大学で学んだ専門的な知識を元に、
体を動かす楽しさを伝えています!



林 大智
HAYASHI Daichi
熊本市立託麻中学校 体育教諭

教育学部中学校教員養成課程保健体育科 令和3年3月卒

熊大のココがイイ!
平成10年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立済々黉高等学校から熊本大学へ。体育教育に興味を持ち、中学校教員の道へ。将来の夢は、子どもたちの夢を一つでも多くかなえること。趣味はランニング。

熊大のココがイイ!
学年を問わず仲が良く、それぞれの夢に向かって努力することができる!

先生になる!夢の実現に向け、文武両道を意識した高校時代

高校生のころから、教員を目指していました。小学校教員か中学校教員のどちらを目指すのかは、はっきり決めていませんでしたが、夢をかなえるために、教育学部への入学を考えて、文武両道を意識して高校生活を送っていました。

保健体育科の行事で、科の一体感を感じた

大学では、保健体育科の先輩、同級生、後輩に囲まれて毎日情熱を持って過ごしました。特に、学科で行われていた臨海実習、林間実習、ダンス大会では、保健体育科全学年の一体感を感じられました。充実した時間を過ごした思い出です。

体を動かすことの楽しさや喜びを伝えたい

現在は、熊本市内の中学校で保健体育の教員として働いています。学生のときに、専門的な勉強も充実していたので、子どもたちに体を動かすことの楽しさや喜びを伝えることができているのではないかと思います。

REPORT 「第5回 KU-KAIST Joint シンポジウム」を開催しました

令和4年10月20日から21日にかけて国際先端医学研究機構(IRCMS)にて第5回KU-KAIST Jointシンポジウムを開催しました。このシンポジウムは熊本大学と韓国科学技術院(KAIST)の医療と技術を活用したバイオエンジニアリング分野、特にバイオイメージング(顕微鏡、ナノテクノロジー、マイクロ流体工学)、シングルセル解析(ビッグデータインフォマティクス、数学モデリングなど)における共同研究を行うために開催しています。今回は3年ぶりに現地開催とオンラインを融合させたハイブリッド開催となりました。韓国・KAISTからは9名、熊本大学IRCMSからは7名の研究者が研究発表を行い、97名の参加者が研究テーマについて意見交換を行いました。さらに午後からはポスターセッションも同時に開催され、学生・研究者との交流も盛んに行われました。



国際先端医学研究機構(IRCMS)の研究内容は5ページでもご紹介しています。

REPORT ボルドー大学の研究者が国際先端科学技術研究機構(IROAST)を訪問しました

令和4年11月9日、フランス・ボルドー大学から小田 玲子リサーチ・ディレクター(IROAST客員教授)ら研究者7名が第13回IROASTシンポジウム:日仏共同セミナー(主宰者 高藤 誠教授)のために来日し、IROASTを訪問しました。高島 和希研究機構長からIROASTの紹介を行った後、インターンシップなど大学院生や博士研究員の相互訪問ならびにインターンシップ制度について意見交換を行いました。今回の訪問を機に両大学の強みを活かした共同研究や研究者の交流を積極的に行っていくことで合意しました。

その後、キャンパスツアーで五高記念館と化学実験場を訪問しました。藤本秀子研究員から五高記念館の歴史や当時の様子について説明を受けました。化学実験場の見学では、ドラフトチャンバーがランプの燃焼による上昇気流を利用した排気システムを組み込んでいるとの説明に大変驚いた様子でした。



国際先端科学技術研究機構(IROAST)の研究内容は7ページでもご紹介しています。

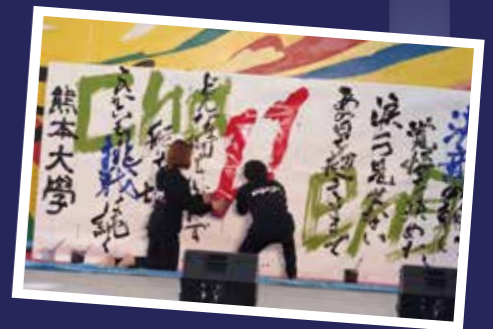
REPORT 熊本大学キャンパスミュージアムシンポジウムを開催しました

熊本大学では、大学が保有する五高記念館等重要文化財を中心とした歴史的・文化的価値のある建造物や研究資源を活用し、キャンパスの広域をミュージアム化するキャンパスミュージアム構想を掲げています。その構想推進に向けた取組の一環として、令和4年10月15日に、熊本大学キャンパスミュージアムシンポジウム「デジタル技術が切り開く地域文化財の未来」を開催し、本学の学生・教職員のほか、自治体関係者等一般の参加者を含め約130名が参加しました。

本シンポジウムでは、金田 明大国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長による「文化財記録の来し方と行く末2022—変化する/しない考えと技術—」と題した基調講演のほか、近年盛んに行われている最新のデジタル技術を用いた文化財の調査・研究・記録・修復の手法などについて、文化財調査最前線の現場での実践報告がありました。また、その後のパネルディスカッションでは、「文化財のデジタル化時代における大学博物館の役割」について、活発な議論が行われました。



Cha 11enge



第十一回 紫熊祭



「第十一回紫熊祭」および「第57回耐久遠歩大会」を開催しました

令和4年11月3日～5日に大学祭(「第十一回紫熊祭」)を3年ぶりに対面で開催しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により一昨年は中止、昨年はオンラインでの開催となり、今年の開催についても7月以降の感染急拡大により危ぶまれていましたが、実行委員の学生達が検討を重ね、3年ぶりの対面での開催が実現しました。

今年は、これまで対面での大学祭開催を経験したことがない学生実行委員によるゼロからの挑戦であり、「Challenge」というテーマのもと、ミス・ミスター熊大コンテスト、熊大コレクション(ファッションショー)、夜の筋肉祭といった例年人気のある企画に加え、重要文化財である五高記念館の復原教室にて行われた小川 久雄学長の特別講話や同記念館のレンガの壁面を利用したプロジェクションマッピング

等、新たな企画も実施しました。大学祭期間中は、天候にも恵まれ、3日間で延べ9,000人が会場に訪れ、3年ぶりにキャンパスの雰囲気を楽しみました。

また、11月2日には、大学祭と同じく、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていた「第57回耐久遠歩大会」を3年ぶりに開催しました。

当日は、天候にも恵まれ、フルコースのスタート地点となった南阿蘇村・白川水源駐車場から161名、ハーフコースのスタート地点となった新阿蘇大橋駐車場から67名の参加者(本学教職員・学生)が実行委員の合図に合わせて真夜中の阿蘇地域を元気に歩き出しました。なお、無事ゴールにたどり着いた完歩者全員に、実行委員から完歩賞(証明書)と記念の完歩タオルが贈呈されました。



第57回 耐久遠歩大会



熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

№60 (令和4年8月1日～令和4年10月31日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約17億6,908万円(令和4年10月31日現在)のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組みさせていただきました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、令和4年8月1日から10月31日までの間に入金を確認させていただきました個人89名、35法人・団体の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

基金の取組事項については、基金ウェブサイトに掲載しております。
熊本大学基金ウェブサイト <https://kikin.jimu.kumamoto-u.ac.jp/>



熊本大学基金 検索

1. お名前・寄附金額の掲載

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

<熊本大学基金>

【100万円】	黒木 政秀(400)	西田 治義(700)					
【40万円】	日本中央競馬会(90)						
【20万円】	小川 久雄(60)						
【15万円】	岡島 寛(49)						
【5万円以下】	池田 勇(8)	井上 裕子(36)	直井 小百合(0.1)	藤田 勝美(2)	宮本 真次(6.4)	本島 昭男(28)	株式会社水輝(10)
	株式会社ハートフェルト(7)		ノーベルファーマ株式会社(5)				

2. お名前のみ掲載

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

<熊本大学基金>

安楽 咲子[3]	一ノ口 史規[3]	一安 秀範[9]	今井 博昭[14]	大石 浩隆[3]	太田 貞之[8]	岡部 和利[2]	北原 隆司[5]
倉澤 剛太郎[2]	倉津 純一[4]	小林 涉[2]	白水 克徳[3]	相馬 実穂	富田 正郎[4]	野口 健一郎・恭子[5]	
馬場 章功[2]	馬場 秀夫[18]	浜田 実[3]	藤井 慎嗣	本多 正克	松本 義幸[4]	溝上 幸洋	宮本 保[18]
山口 昇[2]	山田 雅義[4]	山本 政幸[3]	芳澤 信幸	吉村 良平			
アズビル株式会社[2]	一般財団法人化学及血清療法研究所[11]	医療法人伊東会伊東歯科口腔病院[3]	株式会社秀拓	株式会社同仁グループ			
株式会社西日本梱包資材	株式会社肥後銀行[6]	株式会社ファビルス熊本支社	株式会社双葉金属[3]	九州産交リアル株式会社[2]			
熊本大学医師会[5]	KMバイオロジクス株式会社[3]	堀化学株式会社[18]	東京エレクトロン九州株式会社[7]	ニッタン株式会社熊本支店			
ニプロ株式会社医薬品研究所	有限会社ソシムラ商事[2]						

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人 48名、13法人・団体

REPORT 「令和4年度熊本大学卒業生表彰式」を行いました

令和4年11月5日に令和4年度熊本大学卒業生表彰式を行いました。

この卒業生表彰は、本学の卒業生で、本学の名声を高めていただいた方や本学の発展にご尽力いただいた方の功績を称えるものとして、平成24年度に創設され、各学部等同窓会からの推薦に基づき表彰するものです。

第11回となる今回は、武夫原会(文学部・法学部同窓会)2名、教育学部同窓会4名、理学部同窓会2名、医学部保健学科同窓会1名、薬学部同窓会3名、工業会(工学部同窓会)3名の計15名が表彰を受けられました。表彰式には、各同窓会の会長や関係者及び学部長もご臨席され、小川学長からは祝辞が述べられました。



INFO toio™ で体験する「遊びでつくる、学びと未来」(ワークショップ&トークショー)を開催します

プログラミングを介して自分の思い通りに動いたり、動かなかったりする体験を通して、社会の中で活用されているプログラミングに対して興味・関心を高めるとともに、開発者の話を聞き、未来の自分について考えるきっかけを作るイベントを開催します。本イベントはKumamoto Education Week2023の一環で実施します。

【日時】

①令和5年1月21日(土)TSUTAYAさくらの森イベントスペース

14:00~15:30(ワークショップのみ実施)

②令和5年1月28日(土)鳥屋書店 熊本三年坂 地下イベントスペース

14:00~14:20(トークショー) 14:30~16:00(ワークショップ)

【参加対象者】小学生中学年~(①10名以内、②20名以内) 及びその保護者

【申込方法】右のQRコードまたは、下記のURLから事前申込

(1月9日申し込み締め切り、応募多数の場合は抽選となります)

【参加費】無料 【問い合わせ先】熊本大学教育学部(田口研究室) 西本 096-342-2654

【URL】<https://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/blog/2022/11/2023kew/>



REPORT 「第1回熊本大学スケッチ大会」を開催しました

令和4年11月12日、熊本大学教育学部・大学院教育学研究科は、「第1回熊本大学スケッチ大会」を開催しました。五高記念館をはじめとした本学黒髪キャンパスの秋の風景をスケッチするイベントで、熊本市内及び熊本市近郊の中学生71名と熊本県内のアーティスト20名、教育学部学生21名が参加し、スケッチを通しての交流を行いました。中学生からは「楽しかった。他校の中学生をはじめ、アーティストや学生とも交流ができた良い機会だった」などの感想が多数寄せられました。

今後とも1回の開催を実施する予定です。また、10月30日には小中学生を対象に人吉大会も開催しました。終日楽しんでもらえ、こちらも良いイベントとなりました。



REPORT 「理系のロールモデル講演会」を開催しました

令和4年11月23日、「理系のロールモデル講演会」を開催しました。

本講演会は、「はばだけ！熊本サイエンスガールズ」(令和4年度科学技術振興機構(JST)「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」採択事業)の取組の一環として、女子中高生や保護者、中高校教員向けに理系分野で輝いている女子大学生や活躍している女性研究者及び技術者のロールモデルを紹介し、理系への進路選択を推進するものです。当日は、2名の協力企業OG(ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社及び株式会社RKKCS)からの基調講演のほか、本学の現役理工系女子学生5名からの学生講演があり、当日は、小学生から高校生、保護者・中学校高校教員など、計48名が参加しました。参加生徒からは、好きな事を大事にして進路を自分で決める大切さと理系の仕事の幅広さを学んだなどの感想が寄せられました。今後も理系の面白さとリアルを伝え、理系進路選択の推進に取り組んでいきます。



REPORT 第1回Kumadai-Hub巡回ポスター展を開催しました

令和4年10月3日、熊本大学の「自称」若手研究者の有志による組織Kumadai-Hubは、第1回Kumadai-Hub巡回ポスター展を黒髪キャンパス・工学部百周年記念館にて開催しました。巡回ポスター展は、キャンパスや分野にとらわれない自由な交流の場を作ることを目的に、今回は、熊本大学全教職員及び学生を対象に開催しました。当日は、研究者だけでなく、研究者を志す学生や技術職員・研究支援職員など、38の個人・団体がポスターを出展。84名の参加者が会場を訪れ、ポスターを介して熱い議論を交わっていました。次回は更に趣向を凝らし、本荘キャンパスで開催予定です。



REPORT 熊本大学病院では内科救急・ICLS講習会(JMECC)を開催しています

熊本大学病院では、本院の内科系若手医師(専攻医)を対象とした内科救急・ICLS講習会(JMECC)を開催しています。この講習会は、若手内科医が、緊急を要する急病者様に対し、適切な救命措置ができるよう、日本内科学会のプログラムに基づき実施するもので、本院では年に3回実施しています。(6月4日・12月10日・2月4日実施。今年度はいずれも募集終了)

この受講修了者の中には、指導補助経験(アシスタントインストラクター)を経て、認定インストラクターとして院内外で活躍されている方もいます。

本院においては、インストラクターが少ない状況のため、この講習会とおして多数の指導者を輩出し、地域医療に貢献できるよう取り組んでいるところであります。

なお、講習会へのアシスタントとしての参加は、本院外の医師も可能です。ご興味がある方は以下までお問い合わせください。



【問い合わせ先】熊本大学病院総務課地域・教育支援チーム

TEL:096-342-5923

E-mail: iys-kensyu@jimu.kumamoto-u.ac.jp